平成24年度自己評価および学校関係評価結果書

１．幼稚園の教育目標　　　その子らしさが光り、最後までやり抜こうとする子

２．本年度重点目標　　　自己肯定感を育む保育

３．教職員による評価項目に対する自己評価

評価項目	教職員自己評価	自己評価結果
１．保育の計画性	月１回の学年研修で月の指導計画の読み合わせや修正を行うが、それを実際の保育で実践できたか、学年よりも各クラス担任が反省することが大切だと考える。 週案の内容も子どもたちの姿からというより、行事ややるべきことが中心になっている。	C
２．保育の在り方 幼児への対応	防災防犯のための出欠確認や点呼が遅かったり、甘かったりすることがある。また、固定遊具などの危険防止意識ももっと必要だと考える。 クラス担任同士が連携して、異年齢交流をしたり、お帰りを一緒にしたりして、一緒に保育しようという意識が定着してきた。	C
３．教師としての資質 能力・良識・適正	子どもと対話したり、遊び心を共有することと事務的なことや掃除、整理整頓をまわすことなどを要領よく行うことを両立しなければいけないことが難しい。特に３年目くらいまでは、今やるべき仕事を把握するのが難しい。	C
４．保護者への対応	子どもを育てたことがないと、保護者の忙しさや子育ての悩みを十分理解できず、お手紙を書いたり、話を聞いたりすることも少なくない。その辺りをどのように解決していくか考える必要がある。	C
５．地域の自然や社会 との関わり	先輩職員の姿を見ながら生き物を積極的に飼おうとしたり、関心を持ったりする雰囲気が園の中に広がってきた。しかし、鶏の世話についての課題はそのままになってしまった。どうすべきか検討が必要である。	C
６．研修と研究	食育というテーマで研修を進めていく予定だったが、研究発表ではないということもあり、意識が薄かった。研修をしていく意識を常に持つようにするにはどうしたらいいか？	C

※自己評価結果の表示方法　A…十分達成された
B…達成された
C…取り組んだが達成が十分ではない
D…取り組みが不十分であった

４．次年度以降に取り組む課題

・行事や活動のねらいを押さえる。（その活動を通して、子どもの中に何が育まれてほしいか）
・活動の連続性や導入を大切にする。（子どもたちの主体性を育み、見通しを持って生活し遊べるようにする。）
・安全危機管理について考える。

５．教職員自己評価に対する学校関係者評価

評価項目	学校関係者評価委員意見	自己評価結果
１．保育の計画性	月の学年研修や職員会で園目標や教育課程をどれだけ頭においているだろうか。それがないと単なる思いつきやただ活動を行えばいいという保育の進め方になってしまう。	C
２．保育の在り方 幼児への対応	子どもや保護者の姿や時代の要請に合わせて、保育の内容も園のあり方も少しずつ変化させる必要があるが、その時“おやまらしさ”は残してほしいと思う。だからこそ、“おやまらしさ”とは何かを職員間で確認しておく必要があると考える。	B
３．教師としての資質 能力・良識・適正	子どもと過ごす時間をもっと充実させたいとか、子どもと過ごす時間が楽しいとか、そういうモチベーションをどれだけ持てているかによって、仕事に対する意識が大きく違うのではないか、また、子どもと同じような様々な興味、関心を持っていることも大切だと考える。	C
４．保護者への対応	子どもの保育を充実させるために保護者への支援や連携が必ず必要な時代になった。 また、園の様子、子どもの姿が保護者にわからず、園が願っている子どもの成長や課題についても共有しにくいので、折にふれてそれを伝えるようにしてはどうか。	B
５．地域の自然や社会 との関わり	先生たち一人ひとりがどれだけ自然に対して意識を持っているか、また、自身のプライベートでも地域に対する意識を持てているかとても大切だと思う。	C
６．研修と研究	忙しい中、研修に出掛けたり、園内研修を行ったりするのはとても大変だと思う。だからその研修をその時だけで終わらせない意識が大切だと考える。 短い時間で内容の濃い研修をみんなで考えてほしい。	C

※学校関係者評価結果の表示方法　A…十分に達成されていた
B…達成されていた
C…取り組みはみられたが達成が十分ではない
D…取り組みがみられなかった